

# KONAN TODAY



2022  
AUTUMN

No. 62

KONAN TODAY No.62

2022年9月30日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9番1号 TEL.078-431-4341(代) <https://www.konan-u.ac.jp>

## ●特集 甲南を支える思い

- なるほど!甲南アカデミア  
全学共通教育センター 特任講師  
山本 シャーリ
- ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム  
開講記念特別対談  
「社会のために何かをしたい」。  
その思いをビジネスにつなげる実践力を育成します



## Campus Photo

キャンパス フォト

### 『取り戻す日常』



現在、甲南大学の学生は往時のように、正門から通学しています。2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症対策によって、完全閉鎖されたり、厳正な入構管理で半分閉じられていた正門を、開放するときにやってきました。それとともに、これまでどこかしら窮屈であったキャンパスの気配が、伸びやかな学生生活を謳歌するかのような快活な空気に変わったように感じられます。

甲南大生は、日々、豊かな日常を取り戻しています。

甲南を支える

思い

仲間の活躍を支える人がある。みんなの笑顔を支える人がある。

学ぶ意欲を後押しする人がある。

みんなが気づかないところで、支えていてくれる存在があるから、

甲南にはいつも豊かな時間が流れています。

特集では、仲間への思いやりや生徒・学生への愛情など、

さまざまな思いで甲南を支える方々を紹介します。

## CONTENTS

### 02 特集

#### 甲南を支える思い

03 体育会硬式野球部  
経営学部 4年次 中野 竜志さん

05 ボランティアサークル  
"K'sサポーター「くまのみ」"  
理工学部 4年次 入谷 日奈美さん  
理工学部 3年次 上農 彩斗さん

07 甲南大学生活協同組合  
香川 君枝さん

09 甲南高等学校・中学校 ICT教育部  
株式会社甲南学園サービスセンター  
磯貝 基さん

11 **なるほど! 甲南アカデミア**  
**全学共通教育センター 特任講師 山本 シャーリ**  
もっと自由に、柔軟に。  
オンライン留学の限界を超えるグローバル教育への挑戦

13 **さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生**  
**It's KONAN Style**  
一般社団法人 全日本サッセン協会  
会長 本村 隆馬さん

15 **高中 Topics**  
多様化するキャリアを見据えた教育改革への挑戦  
— 甲南高等学校・中学校の教育カリキュラムはいかに変革したのか  
甲南高等学校・中学校 校長 山内 守明  
甲南高等学校・中学校 副校長 足立 恵英

17 保護者や卒業生と意見を交わし  
生徒が校則と向き合っています  
「校則を考える会」を開催

18 ジャズが響けば まちが笑顔であふれる!  
甲南高等学校・中学校プラスアンサンブル部と  
塚口商店街、尼崎市がコラボレーション

### 19 甲南解体新書 #01

21 **ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム**  
**開講記念特別対談 CROSS TALK**  
甲南大学 社会連携機構長/地域連携センター 所長/  
学長補佐/経済学部 教授 石川 路子  
オープンディールホールディングス株式会社  
代表取締役 木村 和睦さん

### 23 KONAN TOPICS

26 新任退任教職員紹介

27 岡本ぶらり 第11回  
番外編 にしきたり今昔

29 **KONAN FORUM**  
課外活動成果報告/  
新刊一覧 ほか

裏表紙 「取り戻す日常」

表紙の1枚  
正門からのアプローチ  
(甲南大学)



# 選手第一で考え、チームを支え続けられたのは「野球が好き、仲間が大切」という思いがあったから

なかの りゅうじ  
中野 竜志さん 経営学部 4年次

大学における体育会系の部活動には、選手たちを陰で支える「主務」という役割があります。この6月に硬式野球部の主務の任期を終えた4年次の中野さんも、主務を務めた一人。幼いころから野球一筋の生活を送り、大学でもプレーヤーとして活躍することを夢見ていた彼が、なぜ支える側へと転向したのか。その経緯や仕事内容、いま振り返っての思いについてインタビューしました。そこには、支える側だからこそ得たやりがいと成長がありました。

## 野球を続けたくて甲南大学へ、入学前に起こったアクシデント

兄の影響で5歳から野球を始め、中学や高校でも熱中。ごく自然に、大学でも野球を続けたいと考えていました。甲南大学を選んだのは、ちょっと面白いご縁があつて親しみを感じていたからです。

実は、硬式野球部の谷口監督は、僕にとって昔から知っている近所のおじさん。小学生のころから、一緒に犬の散歩をする仲でした。大きくなってからはなかなかお会いする機会がなかったので、入部説明会に参加した時は驚かれましたね。早々に推薦入試で合格したため、高3の2月から大学での練習に参加しまし

た。強豪校からの同級生も同じように参加する中、早く認められたい！という焦りがあつたと思います。

高3の3月、大学での練習がない日、高校のグラウンドで後輩たちと一緒に練習しているときのことでした。ボールを投げた瞬間、肘に「ブチッ」という衝撃が走りました。

神経の損傷で、リハビリすれば治るだろうと言われたのですが、いくらがんばっても治らない。投げるだけでなく、打つのもつらい。高校時代はファーストで5番、打撃で攻めるタイプだったので、このケガは致命的でした。さあこれからというときに、大きな不安を抱えて入学することになってしまったのです。

## 2年次で学生コーチに転向。選手個々の弱点が見えてきた

大学入学後、ケガが治ることを期待しながら硬式野球部で練習を続けていたのですが、好転することはありませんでした。このまま選手としていても、チームの力にはなれない…。思い悩み、苦しんだ1年間でした。監督に申し出て、2年次になるタイミングで「学生コーチ」に転向しました。

コーチといっても、周囲の選手たちは自分より強豪校の出身なので、技術的なアドバイスをする立場ではありません。ノックをしたり、ティーバッティングのトスをあげたりと、練習のアシストをすることが主な役割です。最初は自分がプレーできない歯がゆさを感じていましたが、次第に違う景色が見えてきました。

学生コーチとして練習にかかわっていると、一人ひとりの弱点がわかってくるのです。そこを強化できるよう、重点トレーニングメニューを工夫するようになりました。リーグ戦でエラーをしてしまった選手には、受けそこねた打球と同じノックで反復練習。次の試合でうまく処理できたとき、「ノックのおかげや、ありがとう！」と感謝されたことは忘れられません。

## 主務として練習試合を増やし、チームで手にした価値ある1勝

2年次では、学生コーチとともに「副

主務」も務めました。副務は、部全体のマネージャー的な存在である「主務」をサポートする立場です。副務の中の一人が3年次になったときに主務になります。僕は幹部の先輩方の推薦を受け、翌年に主務になりました。

主務の主な仕事は、道具の購入やグラウンドの整備、部費管理、他大学に試合を申し込むことなど。また主務とは別に、やっぱり野球が大好きなので、ノックやランナーコーチも引き続き担当していました。主務として、特に力を入れたのは練習試合を組むことです。甲南大学は決して強いチームではないため、常勝大学に申し込みの電話をかけても色よい返事ではないこともあり、粘り強い交渉が必要でした。試合経験を積むことがレベルアップへの近道と信じ、社会人チーム、高校生チームにも声をかけました。

そのかいあつて、今年の春季リーグでは、いい意味での「まさか」が起きました。強豪の天理大学に勝つたのです。そのあと、天理大学は優勝したのですが、天理大学に唯一の黒星を付けたのが甲南大学でした。それまで負けが続いていたこともあり、この価値ある1勝によってチームはお祭り騒ぎ。まるで優勝したかのよう

## 選手全員が、全力で、野球を楽しんでほしい

主務を務めるうえで一番に意識した



ことは、「選手第一」で考える心配りです。常に選手のみんなが練習に没頭できるように、自分が一番汗をかきやすいように心がけていました。120人前後のメンバー、誰一人埋もれさせてはいけません。特に1年次は、何をすればいいかわからないので積極的に声をかけ、チームの「一員なんだ」という自覚を育てるように気を遣いました。「いま調子がいいのは誰や?」と監督から聞かれることも多く、信頼されているという喜びもありました。

また、学生野球連盟の役員の方やスポーツ店の方など、社会人の方々との接する機会が多かったこともいい社会勉強に

なつたと思います。他大学の主務との交流も重ね、目上の方とも同年代の方とも人の輪が広がりました。

主務の任期が終わる6月まで、チームの戦績は芳しくなかったので申し訳ない思いもありますが、他大学の主務からは「甲南はみんな楽しそうに野球してるなあ」と言われることが多く、この雰囲気

ボランティアサークル「K'sサポーター「くまのみ」」  
2022年4月に学内で立ち上がった「K'sサポーター「くまのみ」」。すべての甲南大生を対象として、より良い学生生活をサポートするボランティアサークルです。リーダーを務める入谷さんからは、立ち上げの経緯や活動への思いを。メンバーの一人、車いすユーザーの上農さんからは、障がいがある当事者としての視点も交えながら、実際に活動して得られた手応えなどを伺いました。

**視覚障がいのある学生の支援をきっかけに  
すべての学生をサポートする団体へ**

もともと私は、「好奇心なら誰にも負けない」と言えるほどの「やりたがり」。大学入学後も、興味をもったボランティア活動に次々と参加していました。その一つに、学生の修学支援を行う「YOUステーション」からの依頼で、テキストデータを作成する仕事がありました。視覚障がいのある方のため、教科書をデジタル化する途中段階をお手伝いする作業でした。



全学生を対象に車いすの体験会を開催。

後日、この作業に参加した学生が集められ、学生部から「ボランティアサークルとして団体化しないか」というお話があったときも、まず思ったのは「今すぐやってみよう！」。そして、人をまとめるという初めての経験を積むチャンスととらえ、リーダーに志願しました。  
みんなでゼロから活動方針や活動内容を話し合うのは簡単なことではありませんでした。が、次第に打ち解け、活

発に意見を交わせるようになりました。視覚障がいのある方への支援をきっかけに出会ったメンバーですが、今は全学生を対象に活動しています。

**誰もが、誰かのヒーローになれる**

7月には初めての試みとして、学内で「障がい者スポーツ体験会」を開催。健常者も車いすに乗り、ボッチャに似たスポーツであるベタンクと風船バレーを楽しみました。6月から、車いすユーザーである上農さんが「くまのみ」のメンバーに加わってくれたことも大きかったです。私たちも当事者としての視点をもつことができ、企画も運営もより良いものになりました。

また、私自身、これまで障がいのある人が身近にいなかったのですが、上農さんと親しくなったことで「障がいの有無にかかわらず、みんな同じだ」という思いが強くなりました。  
次に考えているのは、秋の摂津祭で模擬店を出すこと。「手話の体験会や謎ときゲーム、お茶会、新入生対象の履修相談会などもやっていこう」と話し合っています。「くまのみ」のSNSアカウントに私が書いたメッセージは「その君、誰かのヒーローになりませんか?」。5年後、10年後、これから先もずっと、「くまのみ」から、たくさんの最高のヒーローが生まれることが私の願いです。

**これまでの経験を、イベントで  
生かすことができた喜び**

日頃、自分がサポートを受けているYOUステーションの方から「くまのみに入りませんか」と声をかけてもらったときは、授業も忙しかったので迷いました。でも、自分が経験してきたことを生かせれば……という思いで参加を決意。

僕は生まれつきの脳性まひで、6歳のときから車いすを利用して使っています。15年も使っていると、もう完全に自分の「足」。車いすがあるからこそ、一人で大学にも通えるようになり、ぐんと世界が広がりました。でも街なかには、車いすユーザーにとって不便なことや、危険な場所がまだまだある……そんなことも「くまのみ」で伝えていきたいと考えました。

最初の大仕事「障がい者スポーツ体験会」で、ベタンクと風船バレーを提案したのは僕です。車椅子や歩行の訓練のため病院で過ごしていた子ども時代に、院内学級の体育の授業で経験したことがあり、これならみんなで楽しめるかと考えました。

当日は、僕がみんなの前で車いすの操作について説明。障害物を置いてジグザグに走るタイムトライアルも実施したのですが、速く漕ぐコツをアドバイスすると「本当に速くなった」と喜ばれました。自分の経験が生かせる喜びを初めて感じた瞬間でした。

**夢は化学の力で、障がいがある人の  
自己肯定感を高めること**

今後は学内の危険な箇所についても声を上げていくなど、活動の幅を広げていきたいと思っています。入学後すぐコロナ禍になったため、1、2年次のころは友人の輪を広げる機会もなく、歯がゆい思いをしていまし



ボランティアサークル「K'sサポーター「くまのみ」」の面々。

た。3年次で「くまのみ」に参加したことで多くの人との交流が生まれ、やっと自分の大学生活が本格的に始まったような気がしています。  
リーダーの入谷さんは4年次なので、来年は僕らで「くまのみ」を盛り上げていかねばなりません。メンバーをまとめるのが上手な入谷さんには、すぐには追いつけそうもありませんが、人前で話ができるようになったのは自分の成長だと思っています。  
甲南大学の人はみんな親切で、実験棟への坂を上るときも多くの人が手伝ってくださることに感謝しています。また、通学時には毎日同じ場所から車いすを押してくださる卒業生の方も。そんな、甲南大学に流れる優しい空気が僕は大好きです。  
僕には夢があり、化学の力を用いた車いすの素材改良などを通して、障がいがある人がもっと自由に活動でき、自己肯定感を高められたらいいなと考えています。そのために大学院への進学を希望し、この恵まれた環境の中、夢に向かって学びつつ、「くまのみ」でも長く活動していけたら最高です。

サークルと研究、  
どちらもがんばれと、  
みんなの優しい空気が  
背中を押してくれる

かみの あやと  
上農 彩斗さん  
理工学部 3年次

必要とされるとき、  
いつでも  
手を差し伸べられる  
人になりたい

【リーダー】  
いりたに ひなみ  
入谷 日奈美さん  
理工学部 4年次



## 学生さんと一緒に 話して、笑って、感動して…。 すべての瞬間が、私の宝物です

お昼の時間になると大学生協の食堂に立ち、とびきり明るい笑顔とよく通る声で活躍する香川さん。「おばちゃん、こんにちは!」「おばちゃん、元気?」と学生たちが次々に声をかけ、その周りには、いつもアットホームでなごやかな輪ができます。約30年の長きにわたり、甲南大学と歩みをともしながら食を通して学生たちを見守ってきた香川さん。その仕事への思いや懐かしいエピソードなどを語っていただきました。

### 事務職のパートから、 大きな仕事の責任者に

大学生協で働き始めたのは、今から30年ほど前。40歳になるかならないかの時期でした。事務職のパートとして売上の管理や日報の記録などの業務を担当していたんです。ところが、若いころから「仕事は与えられるものじゃない。自分で探せ」と教えられてきたせいか、つい何でも自分から動いてしまうんですね。

大学生協は、学生食堂のほかキャンパス内で開催される学生会や懇親会、パーティーなどへも料理を提供しているのですが、当時の上司はオーダーを受けるのと、「承知しました。香川が打ち合わせに伺います」と答えちゃうんです(笑)。信頼してくださったのでしよう。「え?私が行くんですか!」とびつくり仰天し、参ったなあと思いつつながら、教授の研究室を打ち合わせのために訪ねたことを覚えてます。それ以来、学内のさまざまな規模のパーティーや食事で出される料理について、メニューの決定から食材の手配、調理の段取り、当日のテーブルセッティングまですべてを担当させていただいています。

今では、ありがたいことに「困ったら香川に聞け」と言ってくれる方が多く、留学生に贈るお土産選びなど、料理に関係のない相談が寄せられることも増えました。



甲南大学生協同組合

かがわ きみえ

### 香川 君枝さん

### 急げ! アイロンを求めて 自転車走らせた日

仕事を始めたころは、こんなに長くお世話になるなんて思ってもいませんでした。先生方をはじめみなさん優しい方ばかりで居心地がいいのもありますが、やはり、一番の喜びは学生さんたちの成長を間近で見られることです。振り返ると、驚くようなエピソードもたくさんあります。

20年ほど前のことです。一人の男の子が困った顔でやってきて「おばちゃん、アイロンある?」と。よく見ると手には、しわくちゃの黒いスーツ。「昼から企業訪問するんだけど、どうしよう」って。もう、大慌てでアイロンを取りに自転車で自宅へ戻り、何とか間に合わせて無事に出ししました。今では彼も立派な大人になっているでしょうね。懐かしいです。

最近、私も年をとったので「おばあちゃん」と呼ばれることもあり、お姉さんとは言わなくていいけど、せめておばちゃんにしてよ」と冗談交じりに言う、「だって実家のおばあちゃんを思い出すんだもん」と言うんです。あるとき、その子の友達が「え?お前のおばあちゃん?」と尋ねたら、「うん。俺の甲南のおばあちゃん」と。うれしそうな笑顔を見たら、おばあちゃんと呼ばれるのも悪くないと思いつきました。

### さりげない瞬間を 学生さんと分かち合う

甲南の緑豊かで美しいキャンパスが好きて、時間があれば歩き回っています。あるとき、5号館近くの木に鳥がすんでいるのを見つけたんです。通りかかった学生さんたちに「見て、見て!鳥がいるよ」と言うと、「え?どこ?」と興味をもってくれて、しばらく一緒に観察しました。学生さんは「癒されますね」と言いながら、そっと写真を撮っていました。そんなさりげない瞬間が、いつしか大切な思い出になるんです。

毎年、3月になると「おばちゃん、卒業式来る?」と何人かの学生さんが声をかけてくれます。私が花を植えている花壇の前で待ち合わせして記念撮影をすることもしばしば。入学当初は、おしゃべりばかりして落ち着きのなかった子たちが、こんなに成長したかと思うと胸が

いっぱいになります。コロナ禍にあっても保護者のみなさんや先生方が丁寧に彼らを育ててくれた証ですし、学生さん自身も勉強や課外活動、就活にと努力を重ねたに違いありません。この30年、社会は大きく変わりましたが、学生さんの優しさやひたむきさは少しも変わっていないと思います。いつも私に元気を与えてくれる、愛しくてかけがえのない存在です。

### 食堂のおばちゃんに 会いに来てください

2009年、多発性骨髄腫という血液のがんを患い、余命3年と告知されました。職場に戻ることもあきらめていたが、「早く帰っておいで」と声をかけていただき、1年数か月後に復帰。すると自分でも驚くほど元気になり、あっという間に13年の月日が過ぎました。好きでたまらない仕事が生きるパワーを与えてくれたと心から感謝しています。

かつては学生食堂のメニュー決めやスタッフのシフト管理を担当したこともありましたが、今は、先ほどもお話しした



お昼の学生食堂で、香川さんの笑顔に元気をもらった学生、卒業生は数え切れないほど。

# 生徒がより良い未来を歩むため、ICTには、そして私には、何ができるのだろうか

ICT教育部

株式会社甲南学園サービスセンター

いそがい もとき

職員 磯貝 基さん



コロナ禍で教育のデジタル化は一気に加速しました。甲南高等学校・中学校でも、授業において、1人1台タブレット端末やノートPCを活用しています。校内の快適なICT環境を陰で支えているのが、ICT教育部。その統括役だけに留まらず、愛情たっぷりに生徒の未来探しに寄り添う職員、甲南高等学校・大学の卒業生でもある磯貝さんにお話を伺いました。



## 行事の記録撮影に加え、ICT教育のサポートが業務の中心に変化

ICT教育部はもととメディア情報部という名称で、行事の記録撮影やパソコンのサポートが中心の業務でした。現在はそれらに加え、幅広いデジタル機器やネットワーク環境の整備、それらを駆使したICT教育のサポートが重要な仕事になっていきます。特に、2020年に1人1台iPadが導入されたからは、使い方の指導やトラブル対処、Web会議システムZoomを使用したオンライン授業時の「うまくつながらない」という保護者の方や生徒からの電話対応にもあたっています。最近では、ICTを活用して新しい授業を行いたいという先生の相談に応じ、どのような機材やアプリケーションを用いればよいかを提案するといった、ICTをより発展的に活用するための支援が増えています。

## 愛情をもってまいり

### ICTの種が芽吹き始めた

私自身、甲南高等学校・大学の卒業生です。コンピュータには子どものころから興味があり、中学入学時にパソコンを買ってもらって本格的にハマりました。高校生のころから、先生のパソコンが壊れたと聞けば、「任せてください」と修理を請け負っていたくらいでした。自治会総務に所属し、議事録や図表を駆使し

た資料の作成などもマメにしていました。とにかく、自分ができるところで、人の役に立つことなら何でもやろうという気持ちがあっ

て、大学に入学してからもOBとして中高に足を運び、後輩の相談に乗ったりしていました。そうした積み重ねが縁となり、先生からお声掛けいただいたので、2005年にメディア情報部(現ICT教育部)に入職することに。当時、兵庫県はICT人材を各学校に配置するという方針を掲げていたのです。その後、GIGAスクール構想に発展し、コロナ禍で教育のデジタル化が一気に加速。私自身、ICTを活用することで人生が豊かになったと感じましたので、生徒に1人1台iPadを導入できたことは大きな喜びでもありました。

※GIGAスクール構想/2019年に文部科学省が発表した教育改革案。義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する計画で、一人ひとりの個性に合わせた教育の実現が目的。

生徒たちには、学ぶことにICTを使うことが当たり前になってほしいと願っています。それでもできればクリエイティブに使ってほしい。ですから、コロナ禍の2021年に文化祭をオンラインで開催することが決まったときには張り切りしました。実際に、各クラス、各部活がこぞってオンラインのコンテンツを作成してくれました。生徒が自分たちで企画し、工夫して、Webサイトやゲームの作成、ダンス動画のコンテストなどが実現。私も技術面や見せ方などをサポートし、自分の中では大成功の手応えを得ました。生徒にとって、教育の場でインプットの機会が多い

のですが、文化祭がよいアウトプットの機会になったのではないかと考えています。

## 生徒の「やりたい！」を聞くとワクワクと胸が高まる

ICT教育のサポートに仕事の重心が移った今も、体育祭や文化祭、臨海学舎や六甲登山などの行事のカメラ・ビデオ撮影は重要な仕事です。私が入職時に決めた目標は「全員の写真を撮る」でした。それもできれば笑顔がいい。だからというわけではありませんが、「職員だから」「大人だから」という壁をつくりたくないと考えています。壁というのは、こちらの真意が伝わらず、相手に理解されていないためにできるもの。そのため生徒には、何事も丁寧に説明することを心がけています。

放送部には、行事の撮影に協力してもらう機会が多く、顧問ではありませんがアドバイザーのような形でかかわっています。部員からは、たとえば「臨海学舎で全員を撮影し、最終日に生徒ごとに選別した個々のアルバムを作って配りたい」「文化祭でバーチャルリアリティゴーグルを使った現実と仮想空間の3D合成(AR)を作りたい」といった相談を受けることがあり、その「やりたい気持ち」には全力で応えています。そういう子たちが大学の情報系学部に進み、ICT関連の企業に就職したという話を聞くと本当にうれしいです。最近では卒業生から結婚式に招いてもらう機会もあり、入社から17年の間で築いた生徒との信頼の絆を実感しています。



## 誰一人置き去りにせず、ICTを「良く生きる」ための一助に

学生時代は悩みの多い時期でもありません。私も悩みや迷いがあり、苦しい思いをした経験があります。そういう生徒の目の前を少しでも明るく照らしてあげたい。突き詰めれば、「良く生きてほしい」という願いをもっていきます。自分が学生のころも先生にいろいろな相談をして、一人の人間としてかかわってもらいました。今も心に残ることがあったりします。今度は自分がその立場になって、生徒たちに返していかなければと思っています。

またICT教育については、大多数の生徒が好意的に受け止めていますが、一方で勉強のためにiPadを与えられたことで「面倒くさいもの」という認識をもち、うまく活用できていない生徒が少数ながらいいます。なかなか目の届かない、そうした課題をもつ生徒を何とかしてすくい上げ、興味をもってもらえるよう働きかけていきたいと考えています。iPad導入から2年が経過し、ICT授業の内容は進化しています。それが実際に学びの質をどう変えて、どのように生徒の将来の幸せにつながっていくのか。今後とも注視し、改善や支援に力を入れていきたいです。



# もっと自由に、柔軟に。

オンライン留学の限界を超えるグローバル教育への挑戦



Kobe

## 国際協働オンライン 学習プログラムで 世界とつながり プロジェクトに取り組む

私自身これまで長い間、学内外での国際交流プログラムの開発に携わってきました。ですから以前より、国際協働オンライン学習プログラムと称される「COLL(コイール) Collaborative Online International Learning」に関心を抱いていました。

もともとCOLLは、2004年に甲南大学とも縁のあるニューヨーク州立大学によって開発されました。この教育方法の最大の特長は、参加する学生たちが自国にいながらにして、海外大学の学生と直接的に深くつながり、協働して共通の課題解決をめざす密度の高いプロジェクト型の学修体験ができる点にあります。

ご承知のように、海外の経営学系の学部やビジネススクールでは、より実践的なスキルを修得するためにこうしたグループプロジェクトが授業の中心となっています。COLLは、語学習得の傾向が強い従来型のオンライン留学とは一線を画した、より実体験に近い留学機会となるように工夫されたプログラムです。

さらに、日本と海外の大学それぞれの教員が、テーマの決定や進行プロセスの検討などにおいて協力を重ねることで、将来的

に共同研究へと発展する学術面の可能性も秘めています。

コロナ禍の2021年、アメリカ・ピッツバーグ大学との夏期エリリアスタディーズはオンラインのみとなりましたが、そこで初めてCOLLの導入を試みたところ、参加した学生や先方大学の関係者の方々から予想を超える反響をいただき、このプログラムの可能性に一層期待することができるようになったのです。

## オンラインとリアルな留学の 自由な組み合わせで重層的な グローバル教育を実践

2022年は、前年の手応えをもとに、より深みと奥行きのある留学機会を提供するため、ピッツバーグ大学の教員、COLLのコースアドバイザーと協力し、発展型COLLプログラムを創りあげました。具体的には、ピッツバーグ大学との間で、7月から約2週間にわたり、オンラインで協働型学習をした後に、甲南大生が約10日間ピッツバーグ大学を訪問し、現地においてフィールドワークなど、実体験を積み重ねる機会を提供する計画を立てました。オンラインとリアルな留学を組み合わせられる点に、COLLの可能性がありますが、参加学生も十分に実感したように思います。今年のテーマは、昨今地球規模で語られる

新しい感染症は、私たちに新たな教育プログラムの開発や実践を促し続けています。甲南大学でも、感染予防に配慮した運営方法や設備の充実に努め、対面授業を実施すると同時に、オンライン教育プログラムの充実や精緻化に努め、コロナ禍3年目を迎える昨今、一定の成果をあげつつあります。他方で、学生たちにオンライン授業だけでは語れない大学教育を十全に提供できていないのも現実で、そこで欠落していることのひとつが、現実に即した実体験の集積ではないでしょうか。近時は行動制限が緩和され、キャンパスに賑わいが戻り、フィールドワークやグループ学習にも参加する学生も増えつつあります。その反面、海外の国々で学び経験を積む留学については、現時点では完全回復の途上であり、甲南大学においても、オンラインを活用した留学プログラムの開発と対峙し続けています。こうした状況にあって、オンライン留学の限界を超えた、より自由で柔軟なグローバル教育を実践しようとチャレンジする山本シャリー特任講師の試みをご紹介します。



全学共通教育センター  
特任講師

やまもと  
**山本 シャリー**

ハワイ大学マノア校東アジア言語・文学学科卒業。神戸大学大学院国際協力研究科博士課程前期課程修了。現在博士課程後期課程に進み研鑽に努める。学生たちとともに不要となったメガネを回収して世界へ届ける「甲南大学メガネリサイクルプロジェクト」にも携わる。一男二女の母。子育てに専念したころの経験が、学生の個性を尊重して伸ばす指導に生きている。趣味は、映画と音楽鑑賞。日々の疲れは、ドライブ中に思考を整理することでリセットしている。自然の景色を眺めて心と体を癒すことも。

## 日米学生がリアルに集結し ピッツバーグ市の 課題解決への提案

そしてプログラムの総仕上げに、ピッツバーグ市に向かいます。新型コロナウイルスの感染状況が比較的穏やかなタイミングに甲南大生は訪米。今度は、現地でピッツバーグ大生とともにゲストスピーカーによる講義を受講し、市下水道局や貧困層の健康向上に取り組む団体などでフィールドワークを体験します。そして今年度の目玉でもある、現地大学での共同ディスカッションの機会がやってきました。日米双方の学生が一つの教室で隣り合って神戸市とピッツバーグ市の現状や課題について議論を重ねます。最終日には、「ピッツバーグ市長が助けを求めている」という設定のもと、市長室のグリーンピッツバーグ委員会共同議長を招いたプレゼンテーションも行つことができました。現在、甲南大・米國ハワイ大・鹿児島大の3大学オンラインジョイントプログラムをはじめ、ピッツバーグ大との成果を勢いにCOLLによるプログラムは、学内において着実に浸透しつつあります。コロナ禍が終息した後もCOLLを活用し、学習効果の高い柔軟な留学スタイルを創造していきたいと考えています。次世代に必要な異文化理解と協働力を育むグローバル教育の今後に、ご期待ください。

## 古くて新しいデジタルスポーツを開発 サムライの真剣勝負を 多くの人に楽しんでもらいたい

新サイト  
「KONAN-PLANET」にも  
本村さんの関連記事を掲載しています。  
ぜひこちらをご覧ください。



センサーを内蔵した発泡ポリエチレン製の刀を使って戦う、次世代デジタルチャンバラSASSEN（サッセン）。空手道場での訓練を、スリリングなエンタメ系デジタルスポーツにまで高めたのが本村隆馬さんです。2022年10月には東京の秋葉原で念願の全国大会も開催予定。これまでの軌跡と競技の普及に奮闘する今に迫りました。

### 幼稚園児から高齢者まで 楽しめる生涯スポーツ

ライトセーバーのように光る刀を使った60秒の真剣勝負。5回までのスイングをどう使い、一発で決めるか。「だれも見たことはないですが、理想は宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の再現です。打数を5回に制限したのも、サムライの真剣勝負の面白さを感じてもらいたいです」と本村さんは言います。5は何度もテストを重ねて導き出した数字。ルールの規定をはじめ、SASSENをだれもが楽しめるスポーツへと形にするまで、本村さんと空手家のお父さん、刀開発の仲間という創設メンバーで試行錯誤を重ねました。

元になったのはお父さんの道場で教えていた護身術です。不意の襲撃にどう身を守るか、道具を使った訓練を本村さんも子どもたちに指導をしていました。

チャンバラごっこで盛り上がる子どもたちを見て考えたのは「訓練ではなく、単独のスポーツにした方が面白いんじゃないか」ということ。一方、勝った、負けたでケンカが増える中「審判の目で判断される武道の試合に苦しい出がある。子どもたちに同じ経験をさせるのか」と疑問がわいてきました。判定のデジタル化ができたことを知り、すぐに元道場生の理系の仲間相談をしました。答えは「作れます」。

そして、圧力を検知するセンサー内蔵の刀とスマートフォンにダウンロードしたアプリが連動し、「どちらが早く当たったか」を機械判定して楽しめるSASSENが誕生。現在は生涯スポーツとして、幼稚園から特別養護老人ホームでも導入されています。

### CUBE(マネジメント創造学部)での 学び・経験が経営やPR戦略に生きている

生涯スポーツとして周知するため、さまざまな取り組みをしてきました。「世の中になく概念に名前をつけたので、SASSENとは何ですか」「どこが面白いのですか」という問いにきちんと答えないといけない。答えのカードを増やすのが大変でした。

カードを増やす思考の源となったのが大学時代の学びです。マネジメント創造学部1期生として入学し、課題解決力、提案能力を鍛えました。「プレゼンテーションもグループワークも責任を果たすのが苦しくて最初はイヤでした。でも、その経験が役立っています」。

卒業論文は3万字の論文執筆だけでなく、プレゼンテーションも必須。「なんとか食らいついて最終プレゼンテーションをしたら、担当の佐藤先生から良い評価をいただいたのがうれしかったです」。卒論のテーマは広告。SNSを使ったマーケティングにもアンテナを



張って追究した経験が今、SNSを活用したPR戦略に生きています。「自分でプロモーション動画を撮影・編集して、流行らせる。仕掛けに力を入れています」。収益はフランチャイズの加盟金やインスタグラム・養成の研修費、イベントの売上など着実に伸ばしており、経営者としても大学時代の学びを生かしています。

### いつか目標が見つかればいい 大学時代の友人が支えに

「学生時代は将来の目標がなかった」と言います。「いい会社に就職して出世をめざす、そんな未来を描いていました。自営業の父の大変さを見てきたので、社員のほうが絶対にいいと思っていました」。

「やりたいことを仕事にするのは楽しい」と語るお父さんの気持ちはわかっていても、自分にはやりたいことがない。卒業後に就職した会社も早々に退職し、目標がないまま帰郷。そして実家の空手道場で空手家として活動する中で見つかったやりたいことがSASSENでした。

学生時代の友人の存在も大きかったと言います。「目標に向かって一直線にがんばっている人が多かったので、よい刺激を受けました。いつか僕も目標が見つかればいいなと思っていました」。

道に迷った先輩には、こうアドバイスをするそうです。「いつ目標が見つかるかはわからない。そのときに学んだことが生かされるので、今できることを精一杯やろうと。学生時代、僕は目標を見つけれなかった。でも、目の前のできることに懸命に取り組んだことが今につながって、大きな目標を見つかることができました」。

### 新しいデジタルスポーツを 全国へ展開したい

直近の目標は、SASSENの楽しさを一人でも多くの



**PROFILE**

一般社団法人 全日本サッセン協会  
もとむら りゅうま  
会長 本村 隆馬さん



2013年、マネジメント創造学部卒業。大阪の会社に2年間勤務後、故郷の福岡県に戻る。医療事務の仕事の経験から空手家として活動する中、刀を使った護身術をスポーツとして確立させようと決意。「颯爽と風を切るさま」の颯然(さつぜん)からSASSENと命名して特許をとり、2016年一般社団法人 全日本サッセン協会を設立した。

**INFORMATION**

センサー付きSASSEN刀については「購入・レンタル・リース」対応が可能。全国各地出張体験イベントも開催しております。住宅展示場、商業施設、学校など幅広い分野でのスポーツコンテンツとして提供できます。近年では、鬼滅の刃やスターウォーズの流行に乗り、コスプレをして参加する方も多い。体験会のご依頼は順次受付中です。

各種SNSはこちら



# 多様化するキャリアを見据えた 教育改革への挑戦

— 甲南高等学校・中学校の教育カリキュラムはいかに変革したのか

変化が著しく明確な正解がない時代を迎え、学校教育のあり方も変化することを問われています。甲南高等学校・中学校はその変化をいち早くとらえ、2014年にコースの改編を行いました。創立者・平生飢三郎による建学の理念を受け継ぎながら推し進められている教育改革の中身とは。山内校長、足立副校長に語っていただきました。



甲南高等学校・中学校  
副校長 足立 恵英

甲南高等学校・中学校  
校長 山内 守明

## コース改編、 その背景にある社会の変化

— 2014年に大幅なコースの改編を行いました。その目的を教えてください

山内：かつては本校に入学すれば、甲南中高で6年間、自分の好きなことに打ち込み、甲南大学に進学して専門教育を受け社会人になるという流れが主流でした。しかし近年は、中学の早い段階から将来のキャリアを意識し、そのキャリアを実現するために大学で何を学ぶべきかを考える志向に変わっています。子どもたちはもちろん、保護者の希望も多様化しており、それに伴い進路も多様化しています。こうした背景から、文Ⅱ・理数コースの発展的解消を行い、「フロントランナー・コース」を設け、文Ⅰコースを発展させて「アドバンスト・コース」を設置しました。

足立：フロントランナー・コースは、サイエンスとグローバルに特化し、高度な学力と21世紀型のスキルを育成するカリキュラムです。目標とする進路に備えます。

— コース改編から8年が経ちました。生徒の進路に変化はみられますか

足立：フロントランナー・コースを設置したことで、理系志向の強い受験生が増加しました。そのため進路も、国立大学の多様な理工系学部への進学者が増え、現役で国立大学の医学部に進学する生徒も輩出しています。また、グローバル・スタディ・プログラム履修者による海外大学への進学も増え、兵庫県の高校の中では海外進学者が多い学校として注目されています。

## 変わらない「ひと創り」の精神

— 最後に、改めて甲南高等学校・中学校がめざす教育についてお聞かせください

足立：魅力あるコースやカリキュラムに刷新する一方で、変わらず貫いているもの、それが創立者の平生飢三郎先生が掲げた建学の精神・理念です。本校の教育は、人格の形成を第一とし、生徒の個性を伸張させつつ、広く社会に貢献できる人材を輩出することを目的としています。コース改編の翌年には、社会の各分野で活躍されている方々の話を聞く「ソフィア講演会」を開始しました。年2回、中高6年間で12回にわたり第一線で活躍する著名人の考え方に触れることが、「いかに生きるか」を考え、志を立てる良い機会となっています。今後も、社会で生きる力を育む、「ひと創り」の甲南を掲げていきます。

ムになっています。一方のアドバンスト・コースは、グローバル感覚と幅広い教養、真の国際人としての資質を身につけ、主体的に課題解決を行える人材の育成をめざしています。

— フロントランナー・コースには、どのような特徴的なカリキュラムがありますか

山内：中学2・3年時に、サイエンス・ラボ、グローバル・ラボという、思考力と表現力を養うアクティブラーニングでの授業が組み込まれています。サイエンス・ラボでは2時間連続の授業を通して物理・化学・生物・地学の各分野の高度な実験を行い、考察と主体的なレポート作成を行います。またグローバル・ラボでは、世界、平和、歴史、環境といったテーマを設定し、専門家を招聘して深く学び、クラスメイトと議論したり、協働して課題解決へのプレゼンテーションを行ったりします。この2つのラボで科学的思考力や論理的思考力が磨かれます。

— アドバンスト・コースはいかがでしょうか

足立：考え、発言し、行動する探究型の授業を多く取り入れています。アドバンスト・コースには、海外留学を経験するグローバル・スタディ・プログラムがありますが、た

たとえば「グローバルリサーチ」という授業では、SDGs(持続可能な開発目標)からテーマを選び、文献調査、フィールドワーク、インタビューなどを行い、外部の専門家を座長に招いてプレゼンテーションを行います。また、高校一年生の「キャリアデザイン」では、企業訪問を行います。卒業生が社長を務める企業も多く、そこから出された課題に対し、自らのビジネスプランを提案するなど、将来のビジネスリーダーとしての資質を身につける授業を展開しています。

## 刺激を与え、 剥がれ落ちない学力を養う

— 従来型の詰め込み教育とは一線を画した、さまざまな授業を用意していますね

山内：中高生の時期にどれだけ知的好奇心を喚起させられるかが重要だと考えています。教科書で学ぶだけではなく、現在社会で問題となっているテーマに触れて実際に考え、アウトプットして身につけることが、「剥がれ落ちない」学力につながります。

足立：そうした参加体験型の授業と学力の向上とを両立できるように、授業数をフロントランナー・コースでは週37時間、アドバンスト・コースでは週34時間としています(一般的には週30時間)。フロントランナー・コース

### → サイエンス・ラボ(中学2・3年生対象)



実験・実習を2時間続きで行う授業。教科書の単元にとらわれない実験で科学的な好奇心を刺激する。実験結果の考察から科学的思考力を養う。生徒たちが楽しみにしているのが、「ロケットを飛ばそう」と題した実験で、離れた地点で角度を測定し、ロケットの到達高度を求める。

### → サイエンスツアー(高校二年生対象)



フロントランナー・コースの希望者を対象にアメリカへのサイエンスツアーを実施。NASAケネディ宇宙センターで最先端技術に触れ、フロリダ工科大学(FIT)で海洋生物の生態を学んだり天体観測に参加。FITのランゲージスクールで理系英語を勉強する機会も得られる。

### → グローバル・スタディ・プログラム(高校二・三年生対象)



アドバンスト・コースで選択できる国際教育に特化したカリキュラム。グローバル人材に不可欠な英会話力、英文読解力、英作文力を身につけ、世界史を俯瞰、国際政治経済分野についても体系的に学ぶ。3か月~1年間の留学を体験し、帰国後はその体験を論文にまとめ、英語の授業で発表する。

### → ソフィア講演会(全学年対象)



「いかに生きるか」という哲学観を持つことと自らの「志を立てる」ために、年に2回、各界の著名人をゲストに迎え講演会を開催。高中OBのミズノ株式会社・水野正人会長(当時)や心臓外科医・須磨久善先生のほか、アルビニストの野口健氏、京都精華大学学長のウズビ・サコ氏(当時)など多彩な顔触れ。



## 保護者や卒業生と意見を交わし 生徒が校則と向き合っています

### 「校則を考える会」を開催

多様な意見に触れ  
客観視する力を育む

現在、甲南高等学校では、「自治会総務」が中心となって校則の見直しを行っています。自治会総務とは、一般的な学校でいう生徒会のことを指します。甲南高等学校では、伝統的に生徒の自治を重んじており、自治会総務は学校の自治活動を担う中心組織として位置づけられています。自治会総務が現行の校則とさまざまな観点から向き合う「校則を考える会」は、2022年4月に発足し、その後も定期的に開催されています。この会のユニークなところは生徒と教員だけではなく、保護者や卒業生も参加している点です。生徒自治においては、主体である生徒自身の意見や希望が最も重視されますが、いろいろな世代の意見に耳を傾けることによって、「考えに偏りがなく」「視野が狭小化していないか」など、自分たちの意見をより多角的に見る機会としています。

### 会を通じて

生徒の自治意識を高める

「校則を考える会」が発足したとき

かけは、2021年度に中学生委員会によって行われた防寒具に関する署名活動でした。現在の自治会総務役員を務める生徒が、中学時代に生徒の意見を集約する中で、「校則で禁じられているマフラーなど防寒具を着用したい」という意見に注目し、署名活動を行いました。その結果、中学生の過半数の署名が集まりました。この結果をふまえて、今年度の自治会では「校則を考える会」で、防寒具について検討する予定にしています。その他、スマートフォンや頭髪のことなども話し合う予定で、部分的ではありますが、年内をめどに、数十年で初めて校則の改正をめざします。担当の杉本智昭教諭は「校則を考える会」の目標は「校則の見直し」ですが、目的は生徒の自治意識を高めることです。自分たちで考え、自分たちで決断することで、生徒がより主体的に学校生活を送ることができるようになってくれればと思っています。少しずつですがその意識が見られるようになってきていることがうれしいです」と手応えを語ります。

### VOICE



#### 自治会総務会役職：文化書記

なかお しんたろう  
高一 中尾 晋太郎さん

行動しやすく、伸び伸びとした生活を送れる学校をつくるための校則にしたいと考えています。会をもっとオープンに多くの生徒の意見を取り入れるために、将来的にオンラインでの開催などにもチャレンジしたいと考えています。



#### 自治会総務会役職：文化会計

しばた たけのり  
高一 柴田 武則さん

さまざまな方々に意見をいただくことで、視野が広がり自分の考えをより客観視できるようになりました。学校をより良くするには、一人ひとりが当事者として考えることが大切。今後は、より多くの生徒が関心をもつくりが課題です。

## ジャズが響けば

### まちが笑顔であふれる！



#### 甲南高等学校・中学校ブラスアンサンブル部と 塚口商店街、尼崎市がコラボレーション

卒業生とのつながりで  
始まった、まちを  
元気にするプロジェクト

プライベートを実施し  
まちのみなさんと交流を図る

クトが実現しました。

残暑がきびしい8月11日、暑さを吹き飛ばす勢いで、尼崎市塚口のまちにジャズの演奏が響きました。この日、甲南高等学校・中学校ブラスアンサンブル部が演奏するジャズコンサート「塚口ジャズ」が、県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター大ホールで行われたのです。コンサートは、塚口商店街、尼崎市と同部のコラボレーションで、地域活性化や文化の向上へつなげようと企画された取り組みのファイナルを飾るものでした。そもそもこのプロジェクトは、阪急塚口駅前の塚口商店街にある「松葉寿司」の社長で、甲南高中ブラスアンサンブル部OBでもある岡本博幸さん(高H2卒)の思いに端を発しています。コロナ禍で演奏活動がままならない後輩たちに、その機会を提供するとともに、ジャズの演奏で塚口商店街を元気にできないかと考え実現したもので、駅前活性化事業「はんつかパブリックハック宣言」を展開する尼崎市も賛同し、3者のコラボレーションプロジェクト

プロジェクトは6月からスタートしました。まず、地域のみなさんにジャズを身近に感じていただくために、阪急塚口駅前広場を会場に6、7月と2度に行いました。そこでは、お買い物帰りの方々が気軽に楽しめるように、誰もが馴染みのあるJポップや往年の歌謡曲を演奏したり、曲間に楽器の解説をするなど、部員たちは工夫を凝らして、地域の方々やジャズの距離を縮めていきました。このようなブレ活動の効果もあって、8月11日のホールコンサートへは多くの方々足を運んでいただき、「生演奏は初めてで感動した」や「もっと聴いていたかった」など、本格的なジャズのナンバーも含めた演奏を楽しんでいただきました。塚口は映画館やホールもあり、芸術・文化とかかわりの深い地区ということもあり、今年度のコンサートをきっかけに、今後も「まちにジャズが根づいてほしい」と地域の方々への期待が高まっています。



### VOICE

ジャズを聴いたことのない方や、幅広い年齢層の方々に楽しんでいただけるように心がけました。私たちの演奏を聴き終えた方々が、たくさん商店街を訪れてくださり、微力ですが、まちの活性化に貢献できたと安心しています。来年も予定されているので、さらに地域を盛り上げたいと考えています。

おかもと よしたか  
ブラスアンサンブル部 部長 高三 岡本 祥孝さん

### Column

#### ウクライナに思いを馳せ募金活動

ブラスアンサンブル部はほかにも地域活動を積極的に行っており、2022年3月には報道で伝わるウクライナの惨状にメンバーたちが「自分たちに何かできないか」と考え、JR芦屋駅前にてチャリティー演奏会を開催しました。芦屋市にも協賛いただいた演奏会では、一日にもかかわらず多くの募金が寄せられ、ユネスコ協会「ウクライナ緊急募金」に全額寄付しました。

本格的な和の空間 茶室



現在

茶室



1960年代後半



1960年代後半

iCommons 4階の一角にある「茶室」は、格子戸に上がり框(あがりかまち)も設えられた本格的な和の空間です。茶道や華道の文化会活動で利用されるほか、留学生との交流イベントなどでも活用されています。以前の茶室は学生会館1階に位置しており、華道の部屋やキッチンが隣接していました。女子学生が少なかった時代には、茶室でお茶やお琴のお稽古がされていたそうです。

自治会・文化会・体育会の部室



iCommons 3階には「Cabin」と呼ばれる部室が、1室ごとに異なるカラーでスタイリッシュに軒を連ねています。外からは一見スタイリッシュな部室ですが、中は学生の活気や熱気で満ち溢れているのは、昔と変わらないようです。



Cabin

現在



1993年

学生厚生施設 KONAN INFINITY COMMONS(愛称:iCommons アイコモンズ)



KONAN INFINITY COMMONS (iCommons:アイコモンズ)

現在



フィットネスルーム



キッチン



Hirao Dining Hall(食堂)

甲南学園創立100周年記念事業のひとつとして、2017年、岡本キャンパスに誕生したiCommons。食堂をはじめ、フィットネス施設やキッチン、クラブの部室などのほか、学生部、キャリアセンターといった学生が日常で活用する機能を集結した複合施設です。それまで、学生会館と学生会館の2棟に分かれていた機能をひとつにし、さらにバージョンアップした施設で、アクティブな時間を生み出す学生の集いの場になっています。



学生会館・学生会館

1971年



1980年



1980年

甲南  
解体  
新書

#01

日々進化する甲南。「今の甲南ってどうなってるの?」というお声をよくいただきます。甲南解体新書では、甲南の今を知っていただくために、ハード・ソフトの両面から、奥深くに焦点を当てます。第一回は、過去の姿との比較から、その変化もご覧いただきつつ、学生生活の充実を図る甲南大学の厚生施設にフォーカスします。

# 「社会のために何かをしたい」。 その思いをビジネスにつなげる 実践力を育成します

オープンディール  
ホールディングス  
株式会社  
代表取締役  
きむら かずちか  
木村 和睦さん

甲南大学 社会連携機構長/  
地域連携センター 所長/  
学長補佐/経済学部

教授  
いしかわ のりこ  
石川 路子



## 地域を元気にする人

**木村**：プログラム説明にある「地域社会のためのスモールビジネス」に魅力を感じました。このテーマが選ばれた理由は何だったのでしょうか。

**石川**：以前から甲南大学には、地域と学生をつなぐ地域連携センターがありました。学生たちが積極的に地域と連携して活動する中で、地域には何かアクションを興したいと思っている人がいる現状もわかってきたのです。そんな人たちが応援したいと考え、プログラムとして立ち上げました。

**木村**：アントレプレナー育成の中でも、あえて「スモールビジネス」と絞り込んだ

のには、何か訳がありそうです。

**石川**：そのとおりで、本学として取り組むべきアントレプレナー教育を吟味した結果、スモールビジネスを打ち出しました。大学発や最先端研究を全面に打ち出すベンチャーではなく、地域の人たちの営みをしつかりと支え、その人たちの思いを形にする。地に足のついた取り組みが本学にはふさわしいと考えたのです。

**木村**：なるほど、その考え方は、2022年4月に立ち上げられた社会連携機構の目的とも合致しますね。

**石川**：地域連携センターとリカレント教育センターを包括するのが、社会連携機構ですから、地域との連携や社会貢献を重視

しています。

## 地に足をつけて起業する

**石川**：ただスモールビジネスとはいえず、起業して事業を回していくのは、決して安易な心積もりではできません。それを実践されてきた木村さんは、どのように展開してこられたのですか。

**木村**：「三十にして立つ」といいますが、私もちょうど二十代の終わりごろに転機を迎えたのです。どこかに転職するか、それとも自分で事業を興すか。考えた末に、思いきって挑戦しようという覚悟を決めました。

**石川**：いったん社会経験を積んだうえで決断されたんですね。

**木村**：もちろん仕事はしていましたが、起業についての知識など皆無でしたから、そのとき石川先生のプログラムがあれば、ぜひ学びたかったところなんです。とりわけワークショップを中心に組まれているのが、実践的な学びにつながりそうです。

**石川**：最も重視しているのが、まず「自分」は本当に起業すべきなのかを改めて考えるプロセスです。自分と向き合い、自分を深く知るためのワークショップに力を入れています。

**木村**：応募時にビジネスプランを描いて提出しているのに、さらに改めて考えるのですか。

**石川**：プログラムを受講する段階でいったんゼロベースに戻して、自分のテーマを見つめ直してもらおうのです。

**木村**：そのねらいはよくわかります。自分自身を振り返ってみても、大切なのはノウハウなどではなく、まず思いであり、その思いが導く行動でした。

**石川**：起業当初は、かなり苦労したのでありませんか。



木村 和睦さん

2000年甲南高等学校卒業。2012年にデザインで課題のソリューションをめざすアイディアリミックスクラブ株式会社を創業し、2017年より現職にて、グループ数社の経営に携わる。

## ビジネスの根幹は継続性

**木村**：社会人を対象とした初めての試みながら、応募者が予想以上に多かったと聞きました。

**石川**：20名の募集枠に対して約3倍の応募がありました。その中から地域を支えたいとの思いの強さを基準として絞り込ませていただきました。

**木村**：確かに研ぎ澄まされた思いこそが、自分たちは何ものなのかを明確にし、立ち位置をはっきりさせてくれます。私たちも「テレビ業界と大学業界に特化し、デザインで支える仕事をする」と自分たちを定義するところから始め、その後コンテンツ制作の業界などに領域を広げていきました。

**木村**：文字通りサイバイバルでした。次の日にどんな行動をするのか。とことん考え抜いて、一分一秒単位で翌日の行動を決めておかないと眠れませんでしたから。

**石川**：まさに、それぐらいの覚悟をもっていただくために、最初に自分を掘り下げてもらおうのです。



石川 路子 教授

広島県生まれ。神戸大学大学院修了。都市計画コンサルタントとして勤務した後、大阪大学大学院にて博士(国際公共政策)学位を取得。近畿大学経済学部講師、甲南大学経済学部准教授等を経て、2016年4月より現職。

**石川**：顧客を明確に定めて、その人たちにどのような価値を提供するのか。その価値提供によって対価を得る、これがビジネスの原理ですね。ソーシャルビジネスではよく、儲けてはいけないなどと誤解されがちですが。

**木村**：とんでもない話で、ソーシャルであれNPOであれ、収益がなければ継続できません。事業を継続できなければ、顧客に価値を提供できなくなります。

**石川**：ボランティアだから少々質が悪くても、などと甘えてしまうのも間違いで、安易な心構えでは長続きしません。提供する価値の質を保証し、行動を差別化する。それに対する正当な対価として報酬を受け取る。これがビジネスの根幹です。

**木村**：自分たちの活動に誇りをもてないと、ビジネスは成立しないと思います。なるほど、だからまず自分と徹底的に向き合うプロセスを重視されるのですね。

## 人間力が前に進ませてくれる

**石川**：いざビジネスがスタートしたら、しっかりフォローするだけの体制も整えています。受講生にとっては、プログラム修了後が実際のスタートになるわけですから。

**木村**：ビジネスを進めていくうえで重要なのは、人のつながり、つまりネットワークです。その意味で甲南のネットワークは、強力な支えになりそうです。

**石川**：いわゆるマンモス校ではないだけに、中学・高校・大学とも卒業生の方々のつながりも非常に密接です。学外でも甲南

出身の方とお会いすると、一気に距離が縮まるのを実感します。

**木村**：これまでに何人もの甲南出身の先輩経営者から、貴重なアドバイスをいただきました。みなさんが共通しておっしゃるのが「人間力を磨きなさい」です。

**石川**：私も、ビジネスの決め手となるのは人間力だと思っています。人間力を磨き、本当にやりたいテーマを見つけて、実現するため努力する。一人で難しければ、仲間を募って動かしていく。プログラムでの学びを糧に、一歩ずつ着実に進んでもらえるようサポートしていきます。

## あなたの人生、地域社会に彩りを加える、社会のための小さなビジネスを創り出そう ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム

兵庫県 令和4年度「県内大学と連携した起業人材育成事業」活用事業  
「地域社会の課題解決や新たな魅力を創出するスモールビジネス(=地域社会のためのスモールビジネス)」を受講生が実際に実現することを目標にした実践型の起業家育成プログラムです。

- 受講期間：1年間(2022年9月17日~2023年9月16日)
- 受講料：無料 ● 募集人員：20名 ※第1期生の募集は締め切りました





## ふるさと納税を活用した 甲南大学への支援について

一令和4年度 神戸市ふるさと納税  
「未来の神戸づくりに向けた  
大学等応援助成」へのご支援のお願いー

甲南大学は昨年度に引き続き、神戸市と連携し、ふるさと納税制度を活用した「未来の神戸づくりに向けた大学等応援助成」に参画します。神戸市にふるさと納税をしていただく際に、甲南大学をご指定いただくと、納税額から返礼品の経費を差し引いた7割から9割が甲南大学の教育・研究活動に配分されます。

今年度に皆さまからいただきました助成金はリカレント教育や地域連携にかかる事業を中心に充当させていただきます。

本制度は、甲南大学と神戸市、寄付者の三者がメリットを分かち合える「三方良し」の寄付制度です。

ぜひ、本制度を活用した甲南大学へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



## 「KONAN未来サポーターズ」会員の 募集を開始します

これからの甲南学園は、創立者平生夙三郎の「共働互助」の精神を現代に生かし、今まで以上に「朗らかに「つながる学園」」づくりを進めていきたいと考えております。その一環として、この度、「KONAN未来サポーターズ」制度を設置させていただきます。次世代人材の育成、地域貢献など「朗らかに「つながる学園」」づくりに永続的に支援していただける方々を「KONAN未来サポーターズ」として募らせていただくことになりました。

卒業生・保護者・教職員のほか、甲南に関係するステークホルダーの方々から、1口1,000円の継続的な募金をいただき、温かいお力添えをいただいたご寄付は学生・生徒への支援を主とした各種事業をご指定いただける制度となっております。ご寄付の額に応じて、1号館をデザインしたナノブロック等の甲南オリジナルグッズをお届けします。

皆様にご理解、賛同、参画をいただき、一緒になって、未来のための活動を進めさせていただければ幸いです。是非とも「KONAN未来サポーターズ」の一員に加わっていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



甲南オリジナルナノブロック(デザインは変更になる可能性があります)

## 甲南大学開学70周年記念講演会 『SDGsと日本の藝能文化』を開催しました

2021年度に開学70周年を迎えた甲南大学では、「甲南、この学び舎70th-未来に伝える、明日につなぐ-」と題して、シンポジウムや学生によるパネル展などを実施してきました。その締めくくりとして、3月12日(土)に、1981年に本学文学部をご卒業された能楽囃子小鼓方大倉流十六世宗家の大倉源次郎さん(重要無形文化財保持者)を講師にお迎えし、「甲南大学開学70周年記念講演会『SDGsと日本の藝能文化』」を開催しました。

講演会では、能楽にまつわるだけでなく、世界各国を訪れたご自身の体験を交えながら、日本の藝能文化から考えるSDGsについてもお話しいただきました。また、講演会のなかで披露された「高砂」と「鶴亀」では、大倉さんの小鼓に合わせて甲南大学能楽研究部の学生が謡を担当しました。2022年度(後期)からは、大倉源次郎さんにご提言いただき、伝統文化の領域で活躍する本学ご卒業生が担当する新たな講義が誕生します。日本の伝統芸能、伝統文化を通じて大倉さんの熱い思いが多くの学生たちに伝わる授業となるよう、皆さまもぜひご期待ください。



講演会の中では、大倉さんが参加者の皆さんに小鼓のたたき方をレクチャーする、エア小鼓の貴重なワークショップがありました



## 甲南大学同窓会 10月23日(日)「オール甲南の集い」 オンラインで開催へ

甲南学園との共催による恒例の「オール甲南の集い」は、2022年度もオンラインで開催することになりました。オンライン開催は2020年度から3年連続。本年度は久しぶりに対面形式での開催を計画していましたが、新規感染者数が世界最多となっている新型コロナウイルス第7波の感染拡大状況を受け、残念ながらオンラインで実施することといたしました。10月23日(日)、岡本キャンパス甲友会館から、大学同窓会のホームページを通じてライブ配信する予定です。

スペシャルゲストとして、世界で活躍するクロマチックハーモニカ奏者の南里沙さん(宝塚市在住)にご登場いただきます。その他にも多彩なプログラムを予定しておりますのでご期待ください。詳細は、決まり次第、大学同窓会ホームページでお知らせします。

昨年の集いでは、当日のホームページに約4,200件のアクセスがあり、ライブ配信時間帯は約3,200のアカウントに、リアルタイムで視聴していただきました。本年度も多くの甲南ファミリーのご参加をお待ちしております。



クロマチックハーモニカ奏者 南里沙さん ▶

## 「Beyond5G寄附講座」を設置

甲南大学は、卒業生である株式会社ディーエスピーリサーチ代表取締役社長 中西伸浩氏からの寄付を受け、急速に進化する高速通信技術の活用に関する社会実証に学生が挑戦する「Beyond5G寄附講座」を甲南大学社会連携機構に設置しました。

最新の技術であるBeyond5G等高速通信を駆使した革新的な技術・サービスを、文理問わず集った学生チームが開発することをめざします。さらに、2022年度から本寄附講座が主催となり、甲南大学のスマートキャンパス化の可能性を探る「Be Smart Campus Project」が始動します。学部を超えて結成した学生チームに、教職員、卒業生、企業で活躍する社会人も融合してプロジェクトが進められます。



(左から中井甲南大学長、寄付者 中西伸浩氏、長坂甲南学園理事長、石川甲南大学社会連携機構長)

## 令和4年度入学宣誓式を挙行

4月1日、岡本キャンパス講堂兼体育館において入学宣誓式を挙行し、2,323名の学部生および74名の大学院生が甲南での生活をスタートさせました。昨年に引き続き、感染症対策を万全に取りながら3部制での実施としました。当日は対面での式典参加は新入生本人のみとし、ご父母・保護者のみなさまには KONAN INFINITY COMMONS (iCommons) および甲友会館をライブビューイング会場として開放し、ライブ配信をご視聴いただきました。

中井学長は新入生に向けた式辞で、「甲南大学という学びの場を存分に活用しながら、さまざまな知識や考え方と出会い、思考を深める学びを経験してほしいと思います。この経験が、予測不能なこれからの時代を生き抜くみなさんの人間力を開花させ人物を磨き上げると信じています」とメッセージを伝えました。



2022年度

# 新任教職員紹介

[2022年4月1日現在]

よろしくお願いたします!

 文学部英語英米文学科 <b>大谷 祐二</b> 講師 2021年9月1日付 [専門分野] アメリカ文学	 理工学部物理学科 <b>井上 剛志</b> 教授 2021年11月1日付 [専門分野] 天文学	 経済学部 <b>宮本 舞</b> 講師 2022年4月1日付 [専門分野] 環境経済学	 法学部 <b>松原 英世</b> 教授 2022年4月1日付 [専門分野] 刑事政策学	 法学部 <b>竹内 健互</b> 准教授 2022年4月1日付 [専門分野] 刑法	 経営学部 <b>南地 伸昭</b> 特任教授 2022年4月1日付 [専門分野] 金融機関経営の理論と実務および地域振興	 理工学部機能分子化学科 <b>角屋 智史</b> 助教(任期付) 2022年4月1日付 [専門分野] 有機エレクトロニクス・有機機能材料
 知能情報学部 <b>鎌田 十三郎</b> 准教授 2022年4月1日付 [専門分野] クラウド・エッジコンピューティング	 全学共通教育センター <b>DOWLING Tim G.</b> 特任准教授 2022年4月1日付 [専門分野] EFL・LINGUISTICS	 高等学校・中学校 <b>嶋田 良明</b> 教諭 2022年4月1日付 [専門分野] 英語	 高等学校・中学校 <b>住田 将一</b> 教諭 2022年4月1日付 [専門分野] 化学	 高等学校・中学校 <b>後藤 幹</b> 教諭 2022年4月1日付 [専門分野] 数学	 高等学校・中学校 <b>藪上 達介</b> 教諭 2022年4月1日付 [専門分野] 英語	 全学教育推進機構事務室 <b>中田 真太郎</b> 専任職員 2022年3月1日付
 財務部 <b>太田 祐子</b> 専任職員 2022年4月1日付	 理工学部・知能情報学部事務室 <b>成田 正彰</b> 専任職員 2022年4月1日付	 ポर्टアイランドキャンパス事務室 <b>飯塚 琢心</b> 専任職員 2022年4月1日付	 アドミッションセンター <b>稲毛 紀子</b> 専任職員 2022年4月1日付	 学生部 <b>梅田 あみ</b> 専任職員 2022年4月1日付	 学長室 <b>多鹿 綾実</b> 専任職員 2022年4月1日付	 教務部 <b>橋本 拓明</b> 専任職員 2022年4月1日付

2021年度

# 退任教職員紹介

[2022年8月31日現在]

長い間ありがとうございました

 文学部日本語日本文学科 <b>都染 直也</b> 教授 2022年3月31日付	 文学部英語英米文学科 <b>安武 留美</b> 教授 2022年3月31日付	 文学部歴史文化学科 <b>福田 清一</b> 教授 2022年3月31日付	 文学部歴史文化学科 <b>佐藤 公美</b> 教授 2022年3月31日付	 文学部人間科学科 <b>川口 茂雄</b> 准教授 2022年3月31日付
 法学部 <b>前田 忠弘</b> 教授 2022年3月31日付	 経営学部 <b>廣山 謙介</b> 教授 2022年3月31日付	 経営学部 <b>鷹尾 和彦</b> 特任教授 2022年3月31日付	 知能情報学部 <b>岳 五一</b> 教授 2022年3月31日付	 知能情報学部 <b>松本 茂樹</b> 教授 2022年3月31日付
 法科大学院 <b>渡辺 顕修</b> 教授 2022年3月31日付*	 国際言語文化センター <b>CHICHE Didier</b> 教授 2022年3月31日付	 副理事長付専任役(キャリアセンター担当) <b>常深 伊公子</b> 専任職員 2022年3月31日付	 理工学部・知能情報学部事務室 <b>楠田 直彦</b> 専任職員 2022年3月31日付	 全学教育推進機構事務室 <b>渡辺 真理子</b> 専任職員 2022年3月31日付

このほか、  
[経営学部] **加茂 祐子** 特任教授 2022年3月31日付  
[総務部人事課] **浮氣 統一** 専任職員 2021年12月31日付  
[全学教育推進機構事務室] **米田 敦美** 専任職員 2022年3月31日付  
[管財部] **進戸 博** 専任職員 2022年3月31日付  
[ポर्टアイランドキャンパス事務室] **藪上 達介** 専任職員 2022年3月31日付  
[図書館事務室] **山本 慎介** 専任職員 2022年3月31日付  
も退職いたしました。  
※2022年4月1日付で特別客員教授



## 甲南大学2023年度入学試験について



2023年度入学試験より一般選抜に中期日程を追加します。前期日程(2/1~2/5)に加えて、中期日程は2月9日に全学部で実施します。中期日程の出題科目や出題範囲は前期日程と異なりますのでご注意ください。また、英検等のスコアを活かせる外部英語試験活用型を総合型選抜公募制推薦(教科科目型)、一般選抜(前期日程・中期日程)に導入します。その他、募集学部・学科などに変更がありますので、志望する学部・学科が実施する入試制度を右記の入試情報から確認してください。

入試情報は  
こちら



## KONAN-PLANETプラス サービス開始

「甲南から『世界』をおもしろく。」をコンセプトに展開中のKONAN-PLANETに新たなサービス「KONAN-PLANETプラス」が開始します。KONAN-PLANETプラスでは、公開講座や授業等の動画配信、オリジナルの各種サービス、会員特典プレゼントなどを提供していきます。詳細は「KONAN-PLANET」HPからご確認ください。

※KONAN-PLANETプラスをご覧いただくには、「KONAN未来サポーターズ」の会員となっており、年間3,000円以上のご寄付をいただく必要があります。



**KONAN-PLANET**  
KONAN GAKUEN



## 長谷川三郎記念ギャラリー企画展示 『長谷川三郎の手法～解体と構築～』を開催

6月27日~7月12日に甲南高等学校・中学校内の甲南学園長谷川三郎記念ギャラリーにて、企画展示『長谷川三郎の手法～解体と構築～』が開催されました。

甲南小学校から高校時代までを芦屋で過ごした長谷川三郎(1906-57)は、戦前戦後の時代を駆け抜けた日本の近代抽象絵画のバイオニアと目される芸術家であり美術評論家です。長谷川は日本の伝統美の精神と西洋前衛美術運動との間に共通性を見出し、芸術の伝統を解体し構築することで、同時代の新しい芸術の創出に力をそそぎました。

本展では、大学卒業後ヨーロッパでの遊学を経て美術界での活躍を始めた1930年代から、戦後渡米するまでの作品を中心に、長谷川が視覚表現のうえで探求し続けた、解体と構築の手法をたどっていきました。

会期中は、関係者や甲南大生などにご来訪いただき、作品を前に多様な意見が交わりました。長谷川三郎のご親族や研究者の方からも多くの反響をいただき、ぜひ継続的に展覧会を開催して欲しいとの声も寄せられました。



甲南高等学校・中学校内 長谷川三郎記念ギャラリー

## 甲南大学出版会を設立!

大学の役割として教育、研究に次いで、社会貢献が大きく取り上げられており、社会から大学に対する要請は年々高まっております。

2021年度秋頃より、研究成果の発表としての書籍や、学術書、教科書、及び教養書等の刊行により、大学の果たすべき役割の一助となることを目的に、大学出版会の設立を検討して参りました。

甲南大学出版会は、平生 鈞三郎に関する研究や、学園の歴史を紐解く書籍の発行も含め、本来の大学出版会が担う研究・教育成果を社会に還元していく知の発信拠点のひとつとして貢献できるような組織をめざしています。

出版を通じて甲南大学の学術と教育水準を向上させ、研究教育機関としてのブランド力、および社会的評価を高めることを役割といたし、学園・大学のブランド力向上に寄与したいと考えています。



# 岡本ぶらり

第11回

私たちが紹介します

ナビゲーター/  
もっとさんと なんぼーくん  
「岡本」のまちをもっともっと知りたい!  
好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南  
の公式キャラクター。



番外編

## にしきた今昔

今回の岡本ぶらりは番外編。西宮キャンパス(CUBE)があるまち西宮北口を、その歴史も遡りクローズアップします。2009年4月、甲南大学マネジメント創造学部の開設とともに、CUBEが阪急電鉄西宮北口駅前に誕生しました。西宮北口駅は、大阪・神戸間を結ぶ神戸本線だけではなく、宝塚につながる今津線も乗り入れ阪神間のハブ駅となっているため、岡本キャンパスに通う学生にとっても、甲南高等学校・中学校に通う生徒にとっても、昔から馴染みの深いまちです。



### 稀少なダイヤモンドクロス

西宮北口駅の誕生は、1920(大正9)年。甲南学園の創立が1919(大正8)年ですから、その翌年のことです。大阪・神戸間を結ぶ阪急電鉄(現)神戸線の営業開始にともない設けられました。その後、西宮北口から北に宝塚とつながり西宝線が開業。さらに、西宝線が南の今津まで延伸され今津線となったのは、1926(大正15)年のことです。

この開業された今津線が神戸本線と西宮北口駅構内で平面交差することとなり、この平面軌道交差は「ダイヤモンドクロス」と呼ばれました。大規模な平面交差が設けられることは、高速鉄道においては極めて稀なことであり、鉄道ファンのみならず「西宮北口のダイヤモンドクロス」として全国的に有名になりました。



線路が縦横に交差する  
「ダイヤモンドクロス」



「ダイヤモンドクロス」のレールの一部が、今でも阪急西宮ガーデンズ前の高松ひなた緑地に残されているよ!

高度経済成長期以降は、周辺の都市化が進み鉄道利用者が増加。列車の増発が余儀なくされ、交差する列車同士の信号待ちがダイヤ編成の課題となり、1984(昭和59)年に今津線は南北に分断され、ダイヤモンドクロスは廃止されました。

平面交差の「ダイヤモンドクロス」を越えるには1分程度の時間がかかり、通過時は『ガタタンガタタン』と独特の音を響かせたと言われます。その音をなつかしく思い出される方もいるのではないのでしょうか。



今津線に乗り込む人集り(昭和30年代)



駅構内に数箇所あった踏切(昭和30年代)

### 待ち合わせの時計塔



現在の時計塔(カリヨン)



以前の待ち合わせ場所時計塔(写真左端)



西宮北口駅が現在のような橋上駅舎に姿を変えたのは、ダイヤモンドクロスの廃止後の1987(昭和62)年。この時、現在の西宮北口駅のシンボルとなる時計塔(カリヨン)が設置されました。2階コンコースに設置された時計塔、17個の鐘を奏らせたカリヨンは、今なお、時を告げるとともに、利用者に愛され定番の待ち合わせ場所になっています。

話は逸れますが、「西宮北口駅、待ち合わせは時計塔」と聞いて、もうひとつの時計塔を思い浮かべる方もいるのではないのでしょうか。以前は駅構内にも踏切があり、その傍らに時計塔が設置されており、定番の待ち合わせ場所でした。「ダイヤモンドクロス」の廃止とともに撤去されましたが、その意志は、2代目のカリヨンが引き継いでいます。

現在、西宮北口駅前は南北に、「阪急西宮ガーデンズ」と「アクタ西宮」といった大型の複合施設が建ち並び、近代的でスマートなまちのイメージで、その様相に変遷してきたのは2000年以降です。では、「阪急西宮ガーデンズ」の広大な敷地、そこは以前、野球場であったことをどれくらいの方がご存知でしょうか。

プロ野球チーム阪急ブレーブスが本拠地を構えた「阪急西宮球場(後に阪急西宮スタジアム)」は、プロ野球以外にも球場内に設置したバンクを利用して「西宮競輪」が行われ開催日は人で賑わいました。また、アメリカカンフットボールの競技場としても活用され、甲南大学アメリカンフットボール部「レッドギャング」も、公式戦を行っていました。一方、駅北側の「アクタ西宮」が整備される以前の周辺は、北口本通商店街や北口市場があり、多くの個人商店が軒を連ね、庶民の生活を支えていました。

番外編、西宮北口の今昔エピソードはいかがでしたか。現在「住みたいまちランキング」で常に上位にランクインする憧れのまちは、その昔から多くの人々が行き交い集まる、活気と熱気にあふれるまちであったようです。



上空からの西宮球場(昭和40年代)。場内に競輪のバンクが設置されている。手前右が西宮北口駅前

※一部写真は西宮市提供



通りいっぱい賑わう北口本通商店街(昭和40年代)



Konan Athlete

課外活動成果報告

みなさんの活躍に心より拍手を送ります。掲載期間 2022年1月〜6月

大学

女子バレー部
関西学生バレーリーグ戦(5月)
男子バレー部
第30回全日本学生バレーリーグ戦(5月)

女子ソフトテニス部
第27回関西学生ソフトテニス春季リーグ戦(5月)

男子バドミントン部
第104回全関西学生バドミントン春季リーグ戦(5月)

女子バドミントン部
第104回全関西学生バドミントン春季リーグ戦(5月)

甲南学園の教員・教諭と卒業生が執筆した

新刊一覧

「シティポップの基本」がこの100枚でわかる!
著:栗本 音 [H4法卒] 著 星海社新書 ¥1,100(税込)

0から1を生み出すデザイン思考の教科書
著:油井 毅 [H15当卒] 著 泉文堂 ¥1,980(税込)

0から1を生み出すデザイン思考の教科書
著:油井 毅 [H15当卒] 著 泉文堂 ¥1,980(税込)

会計学エッセンス(第5版)
著:内藤 文雄 [経営学部教授] 著 中央経済社 ¥2,860(税込)

市民後見人と創る「自立」と「共生」の社会
著:香山 芳範 [H24法科大学院卒] 著 あいり出版 ¥1,980(税込)

世界史を歩く -新全世界紀行-
著:南里 章二 [甲南高等学校・中学校元教諭] 著 ナカニシヤ出版 ¥3,300(税込)

坂口安吾 大事典
著:友田 義行 [文学部准教授] 他著 勉誠出版 ¥15,400(税込)

SPECIALTY FOOD, MARKET CULTURE, AND DAILY LIFE IN EARLY MODERN JAPAN
著:志水 昭 [H5法卒] 著 Lexington Books \$95.00(税込)

一人ひとりを大切にする学校
著:杉本 智昭 [甲南高等学校・中学校教諭] 他訳 築地書店 ¥2,640(税込)

バドミントンの歴史
著:鶴木 千加子 [全学共通教育センター教授] 著 大修館書店 ¥2,200(税込)

一人ひとりを大切にする学校
著:杉本 智昭 [甲南高等学校・中学校教諭] 他訳 築地書店 ¥2,640(税込)

新サイト「KONAN-PLANET」に月に1度戦績を更新しています。こちら合わせてご覧ください。
甲南スポーツ
QRコード

女子バドミントン部
第104回全関西学生バドミントン春季リーグ戦(5月)
男子バドミントン部
第104回全関西学生バドミントン春季リーグ戦(5月)

編集後記
今回の特集は「甲南を支える思い」。さまざまな場面で学園を支えている学生・職員を取り上げました。取材をさせていただいたみなさんの温かい思いをお聞きし、改めて多くの方の支えにより、学園が成り立っていることを実感しました。ご自身の学生時代を支えてくれた方々に思いを馳せながら、お読みいただければ幸いです。また、本号から新コーナー「甲南解体新書」が始まりました。紹介する場所についてリクエストがありましたら、ぜひ、アンケートフォームよりご意見をお寄せください。

PRESENT
なんぼーくんクリッププレート付きフリクションボール
ロゴ入りのこすると消えるボールペン。インキ色は黒・赤のベーシックな2色です。ご希望の方は、同封のアンケートハガキもしくはWebアンケートからご応募ください。
抽選で50名様に!
応募締切:2022年12月31日到着分まで